

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話 2-9772

海士町の教育活動

海士町教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を紹介します。

【研究指定校事業について】

海士町では海士中学校が今年度より三年間、島根県教育委員会から「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善プロジェクトの研究指定を受けています。

この事業は、小学校では算数、中学校では総合的な学習の時間を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するための実践モデルを確立しようとするもので、「協調学習」等を活用した実践を重ねています。

ここでいう「協調学習」とは、一人一人の違いを生かしながら他者と協働し、各自が理解を深め、学んだ成果の適

用範囲を広めていく学習の仕方を目指します。

研究を推進するにあたり海士中学校では、研究対象教科等である総合的な学習の時間、数学以外の教科でも協同学習の手法を取り入れた授業実践を積み重ねており、校内で教員同士が授業を見せ合うことで、個々の授業力の向上が図られています。

十一月十三日（水）に、二年生の総合的な学習の時間で公開授業が行われました。授業では、生徒たちがそれぞれの考えを持ち寄り、対話を通して様々な視点から検討しながら、課題に対する答えをつくりあげようとする姿が見られました。

次回は二月四日（火）に、数学の公開授業が予定されています。今年度は研究推進校を対象としての公開ですが、来年度は隠岐管内の学校に向

けても公開されます。

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業とはどのような授業なのか、その授業ではどのような子供の姿が見られるのか、各校での取組の参考になる機会だと思いますので、ぜひ来年度以降の公開授業にご参加ください。

（文責 派遣指導主事 濱）

【海士町の人権・同和教育推進事業の取り組み】

海士町では「みんなのでしやばる」というキャッチフレーズのもと、地域・家庭・学校とのつながりを生かして子供たちと共に人権感覚を醸成していく活動を展開しています。

毎年、町内の小学校で行っている人権標語づくりの活動を町づくりの事業に広げたいこうと、二年前から中学生や高校生、保護者にも呼びかけ、集まった作品をキンニヤモニヤセンターに掲示しながら町民への啓発活動を行ってきました。今年は保護者からの出品が増え、心温まるメッセージがたくさん集まりました。また、作品を活用して人権

啓発カレンダーを作成しました。十一月二十一日に開催された町内人権・同和教育推進協議会総会におい

て作品選考会が行われ、カレンダーに掲載される三十六作品が選ばれました。海士中学校では、昨年度から生徒会活動として標語作品の選定を行い、人権教育活動を生徒会活動に生かそうとする取り組みも行っていきます。

背景のデザインは町内十四地区の活動写真を活用しました。各区内での活発な地域活動や心温まる交流活動など、標語と同様に町民へのメッセージが込められた写真が集まりました。

町民同士の温かいつながりや多様性を生かした活動などが自他を尊重し合



う町づくりにつながっていくことを願っています。

（文責 派遣社会啓事 山下）

「子供の姿」を中心に据えた研究協議の広がり

管内第二回研究主任会で、研究授業・研究協議における研究主任としての働きかけと課題について協議しました。

この会で、ある小学校の先生から「授業者が願う子供の姿に近づいているかどうかという視点で、研究協議を行っている。」と紹介がありました。参観者は付箋紙に具体的な子供の姿や発言をメモ書きします。協議では付箋紙を「目指す姿」に近いのか、遠いか貼り分けてその背景を協議するのだそうです。

これまではどちらかというと、授業者が主語になり、発問や支援のあり方はどうであったか、ということが研究協議の中心でした。

「授業の主語は子供」と言われるように、次期学習指導要領においても、

・ 子供思いや考えを理解すること
・ 子供の学びと本時のねらいを照合すること

等が、「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師力として求められています。

前述の小学校の実践は、会の参加者にとってよい刺激となりました。その後の学校訪問で、いくつかの学校が「子供の姿」を中心に据えた研究協議を行っていました。また、公開授業時に実践した学校もあり、そこに参加した先生が早速自校で取り入れたという話も聞きました。

管内の研究主任会を通して、先生方が主体的に校内研究の充実を図る取組を広げておられて本当に素敵だと感じます。

今後も「子供の姿」を中心に据えた研究協議が増えることを願っています。二学期も、大変お世話になりました。ごさいました。

（文責 森）